

収支均衡に向けた取組

- 令和4年度からスタートした、本県の総合計画「静岡県の新ビジョン 後期アクションプラン」では、将来にわたって安心な財政運営を堅持するため、令和7年度までに財政調整用の基金を除いたその年度の歳入によってその年度の歳出を補う、収支が均衡した財政運営を目標としている。
- 令和4年度の決算等を踏まえ、今後の財政の見通しを試算した。

1 試算の考え方

令和4年度当初予算編成時に公表した「今後の財政運営方針」における試算の前提を基本として、令和4年度決算及び令和5年度6月補正予算を反映した。

2 試算結果

歳入面では、一般財源総額が原則として据え置かれる一方で、歳出面では、社会保障関係費や金利上昇に伴う公債費の増加、県有施設の電気料等の高止まりなどにより、現状のままでは、令和7年度の収支均衡の達成は難しい。

<財政調整用の基金による補填額（年間ベース）>

（単位：億円）

区 分	R4 決算	推 計		
		R5 現計	R6	R7
収支均衡 (財源不足額)	△32	△468	△273	△91

※ 当初予算編成後の財源不足額に、効率的な予算執行等を加味した金額である。

3 今後の対応

- 給与改定に伴う人件費の増や国が検討している「異次元の少子化対策」等については、本試算に未反映のため、今後歳出の大幅な増加が懸念される。
- 試算の前提としている「歳入・歳出の見直し」だけでは、収支均衡の達成が困難なため、令和6年度当初予算編成に先立ち、全庁的に歳出のスリム化や歳入の確保に取り組むことで、令和7年度の収支均衡の達成を目指す。

試算結果

＜予算編成時＞

(単位：億円)

区 分		R4 決算	推 計		
			R5 現計	R6	R7
歳 出	義務的経費	6,304	6,462	6,432	6,357
	うち扶助費	1,369	1,421	1,455	1,498
	税収関連法定経費	2,396	2,373	2,398	2,427
	投資的経費・その他の経費	5,738	4,919	4,387	4,358
	うち新型コロナウイルス 感染症対策関連事業	1,693	601	0	0
	歳出の見直し	—	—	△40	△40
	計	14,438	13,754	13,177	13,102
歳 入	県税・交付税等	9,887	9,548	9,623	9,772
	県債	1,071	948	1,075	1,030
	国庫支出金等	3,448	2,720	2,076	2,059
	歳入の確保	—	—	60	80
	計	14,406	13,216	12,834	12,941
差 引		△32	△538	△343	△161

※ R4 決算には、R3→R4 繰越分を含む

＜執行段階＞

効率的な予算執行等	—	70	70	70
-----------	---	----	----	----

＜年間＞

財源不足額 (財政調整用の基金による補填額)	△32	△468	△273	△91
-----------------------------------	------------	-------------	-------------	------------

翌年度以降に活用可能な基金残高	892	424	151	60
-----------------	-----	-----	-----	----

新ビジョンの目標値の推移

区 分	目 標	R4 決算 ※	推 計		
			R5 現計	R6	R7
収支均衡 (財源不足額)	R7までに収支均衡 (財源不足額を解消)	△32 億円	△468 億円	△273 億円	△91 億円
通常債高 残 高	毎年度 1兆6,000 億円 程度	1兆5,962 億円	1兆6,127 億円	1兆6,051 億円	1兆5,942 億円
実質公債費 比 率	毎年度 18%未満	(12.8%)	13.2%	13.6%	13.6%
将来負担 比 率	毎年度 400%未満	(242.7%)	242.6%	238.2%	227.4%

※ R4年度の実質公債費比率と将来負担比率は、最終予算ベースの推計値